トピック①

「多文化教育プログラムin 群馬」
文化の違い、言葉の違いなんて　ノープロブレム！

アジア共同体学校（韓国釜山市）の学生来日

アジア共同体学校

人口およそ5000万の韓国国内には140万人くらいの外国人が含まれると言われています。就労や国際結婚など理由は様々ですが、多文化家族は増加し続けています。そんな中、韓国語が出来なかったり、韓国社会にうまく適応できない子ども達が増え続けています。アジア共同体学校はそんな子ども達のサポートを始めたことがきっかけで2006年に１０名の学生から釜山でスタートし、現在は釜山市教育庁の委託教育機関として、小学生から高校生まで15カ国、約80名に韓国語教育、学力認定教育を行なっています。人種、民族、文化、宗教の多様性を尊重し、思いやり、助け合い、分かち合いの精神を実践する教育を目指していることが注目され、受験や進学一辺倒の教育とは別の選択をして入学してくる韓国人も増えているそうです。

今年の夏、高校生５名、中学生１名、教員４名が日本文化に接し、さまざまな文化を背負う若者たちと交流するために群馬を訪れました。６日間の滞在中、行動を共にしたフォーラム会員で評議員の朴順子さん（ハングル講師）に報告してもらいました。

ブラジル人学校との交流キャンプ

８月１８日（月）　成田から前橋に着いた一行は駅前「ゆーゆー」で温泉体験。NIPPON文化学院の先生が浴衣の着付けをして下さった後、歩いてNIPPON文化学院へ。院長先生が伝統的な折り紙を教えてくださりインド、スリランカ、モンゴル、中国の留学生たちともあっという間にうちとけて初日の緊張感も吹き飛んだようだった。浴衣姿のまま青少年センターの大きなぐんまちゃんの前でハイポーズ！

８月１９日（火）ブラジル人学校の学生と１泊のキャンプをおこなうために国立赤城青少年交流の家に向かう。先生は一切口を出さないで学生自らが調べたり尋ねたりしながら目的地にたどり着くのがこの学校のスタイル。朝７時のローカルバスで前橋駅まで行って乗り換え、赤城まで行く予定だったのにハプニング発生！赤城までのバスは事前にバス会社に連絡が必要だった。時間も迫っているので途中まで私たち支援スタッフが車で迎えに行って９時過ぎに無事到着。午後からはワールドパーティの準備におおわらわ。薪をくべて調理するのだがなかなか思い通りにはいかない。日が落ちてキャンプ場だけが光の中に浮かび上がった頃ようやくパーティが始まった。

韓国からのメニューは①ラポッキ（トッポッキにインスタン

トラーメンの麺とチーズ入り）②クジョルパン（餃子の皮のような生地を焼いて人参、きゅうり、卵、肉などを包む宮廷料理）③チジミ④フルーツポンチ。ブラジルからは①シュハスコ（ボリュームたっぷりの肉の串焼き）②タピオカの豆粉　③フランスパン風サンド（パンにレタス・トマト・肉のサンド）お腹一杯食べた後はお楽しみの出し物が始まった。

韓国の学生たちは用意してきたミニスカートをまとい、頭には可愛い花のリボンをつけ速いテンポの曲にのりのりのダンスを披露、歌は「世界に１つだけの花 」。 ロシア、フィリピン、日本、韓国を母国にもつ６名の、ロシア語、タガログ語、英語、日本語、韓国語の歌詞をまじえた歌は、多文化を共に生きる子どもたちの心に深く染み入った。ブラジルの学生２０名は伝統的なダンス、いつの間にか全員を巻き込んで熱く盛り上がった。ほとんど日本語が話せないが「また来たい！」と互いに、メールアドレスなどを交換し合った。言葉なんて何とかなる！今日からはみんな友だち、チング、アミーゴ！

アンナの手紙

韓国からの紅一点、ロシア籍のアンナが日本語の手紙を読んだ。（日本語検定３級に合格した彼女の文をそのまま紹介します。原文はひらがなです）

「こんばんは、私はアンナといいます。１９歳で高校２年生です。私は２００７年にロシアから韓国に来ました。韓国に来て１ヶ月も経たないうちにアジア共同体学校に通うことになりました。言語や文化を勉強し早く韓国に慣れようとしました。しかし思春期でもあり急に変わってしまった環境について行けず、いい加減な行動をしてしまいました。だけど友だちとのために一生懸命勉強し、どんどん点数も上がり先生が話していることもわかるようになりました。そうしたら自分のやったことの悪さが理解できました。そう、心や思いを変わり続けながら少しずつまっとうな行動をするようになりました。昔の自分を見つめなおすと昔の自分が恥ずかしいです。だけどこれからは昔の自分を見直し恥ずかしい思いをしないように頑張ります。で、私は韓国だけでなくほかの国でどんな辛いことがあっても次からは笑って過ごせますから。皆さんも勇気を持って頑張ってください。
ファイト！」

彼女がこの場所に立つまで、どれだけ苦悩し葛藤したかを考えると涙が止まらなかった。そしてこの学校との出逢いが彼女の人生を大きく変えたのだと思った。この先彼女は第２第３のアンナを育てていくことだろう。ありがとう！カムサハムニダ！オブリガード！感謝の思いが一枚の絵になった。

次の日は快晴の空の下みんなで登山。後日一番好きな所はと聞かれて「赤城山！」と答えたそうだ。

ホームステイ・最後の夜

21 日から 22 日までは初めてのホームステイ。心のこもった温かいおもてなしに日本がそれぞれの心の中で存在感を増したように感じる。22 日はこのプログラムに関わった総勢 27 人が集い笑顔で語り合った。突然の大雨や　稲光にもシャッターをきって大はしゃぎした学生たちは群馬での最後の夜を楽しんだ。 23 日には 5 時間半かけて渋谷の NPO 法人 good にたどり着き、浅草や秋葉原を見物。その後、国境を越えた別のキャンプ（ good の企画）から戻ったばかりの大学生たちと交流。 40 人近くにもふくれあがった集いの場は熱気が満ちあふれた。

翌日、一行は抱えきれない思い出を胸に大空へ飛び立った。